



開催中

「戦時下の地震—隠された東南海・三河地震」

3月8日(火)～5月6日(金)

戦時下には、ラジオや新聞の情報から毎日の天気予報も消えました。そんな時に起こった二つの地震とその背景にスポットを当てました。

戦時下、名古屋空襲が始まる直前に海溝型の巨大地震が愛知県を襲いました。1944年12月7日の東南海地震では三重・愛知・静岡の3県に被害が集中、1,223人の犠牲者がでました。愛知県では名古屋南部の三菱道徳工場や半田の中島飛行機など航空機生産工場に大きな被害が出ました。工場に勤労働員されていた学徒をはじめ多くの犠牲者が出ましたが、こうした事実を国民に知らせることは戦意を低下させるとして新聞の検閲が強化され、国民は正確な情報を知ることができませんでした。

1945年1月13日には愛知県西三河地方を内陸直下型の三河地震が襲いました。被害の範囲は西三河に限定されましたが、東南海地震の影響に続いての大きな揺れは家屋など建物の倒壊をもたらしました。地震発生が午前3時38分であったため、避難する間もなく家屋の下敷きとなった犠牲者は2,306人で、東南海地震の犠牲者を千人以上上回りました。犠牲者の中には空襲を避けるため名古屋市内の国民学校から集団で疎開していた学童が含まれていました。

半田市立博物館と安城市歴史博物館からお借りした貴重な資料に加えて、米軍偵察機が捉えた空中写真も展示しています。



◆アンケートから◆ 戦争中、天気予報が軍の秘密事項として国民に知らされなくなりました！びっくりしました。地震の被害も隠され、救援を求めることもできなかったとのこと。「軍隊は国民を守らない」と聞いたことがあります。本当にそうなんだと思いました。(55歳女性)

ボランティア新人交流会を開きました！

2021年12月11日(土)

例年は3月にボランティア全体会を行っていますが、今年は一昨年来のコロナ禍のため、全体会の開催を危ぶむ声も出ていました。そこで、多くの新しいボランティアさんに登録していただいていたこともあって、交流の場を作りました。「お互い、もっと知り合いたい」「いろいろな活動に



参加したい」という気持ちをみなさんがお持ちだとわかり、有意義な交流会となりました。

今年も

「名古屋大空襲犠牲者追悼の夕べ」を行いました。

3月12日、ピースあいちの平和地蔵前でともし火法要を行いました。平和メッセージの書かれたともし火を並べ、建昌寺と瑞光寺の僧侶お二人の読経の中、ボランティアが手をあわせて追悼しました。



ピースあいちは開館15年を迎えます

館長 宮原大輔

ピースあいちは今年5月4日に開館15周年を迎えます。15年前のこの日のことが、開館10周年誌『希望を編みあわせる』では次のように書かれています。

「盛況だった開館式／5月4日、オープンの日はさわやかな五月晴れだった。地元の公職者の方々、全国からお祝いに駆けつけてくれた平和資料館関係者、多くのマスコミにも囲まれて、開館式は盛大だった。ご挨拶や祝辞のあと、加藤たづさんに感謝状を贈呈し、館のメッセージである「希望を編みあわせる」の詩を事務局全員で朗読した。／最後にテープカットをして開館式は終わった。夕刻からは、名東文化小劇場で「今こそ、平和のメッセージを!」が開催され、満席のお客さまにも祝福されて「ピースあいち」は船出した。多くの人々の支援と協力によって、この日を迎えることができた。感謝と喜びの開館日だった。」

また年表には、名東文化小劇場での講演会と音楽の夕べでは早乙女勝元さんの講演と千種高校吹奏楽部、松本三紀夫とコールロマンチェの演奏が行われたことや、この日に「ピースあいちニュース」第1号が発行されたことが書いてあります。

開館を迎えた嬉しさや、どれほど多くの方々の期待

を集めたのか、その雰囲気伝わってきます。実際に開館時間前から多くの方々がピースあいちを訪れて、階段までもが人の列で埋まっていました。そして見知らぬ方が花束を届けてくれたのです。

こうしてピースあいちはスタートし、15年を経ました。来館者数はまもなく9万人となります。ピースあいちは多くの支援者に支えられてきました。また多くのボランティアさんに日々の運営を担っていただいています。常設展のほか、年間を通じていろいろな企画展が開催されています。市民による平和博物館、この理想形をこれからも追い求めていきます。

さらに現在では認定NPOによる博物館相当施設という全国でも稀有な存在となりました。今後博物館法改正への対応などの課題が出てくるかもしれませんが、これまでの経験と蓄積を生かして対応していきたいと思っています。

公立の戦争資料館（平和博物館）を望みながらも、市民立でスタートしたピースあいちですが、15年の歳月は「これでよかった」と教えてくれているように思います。

予告 沖縄戦と日本復帰50年

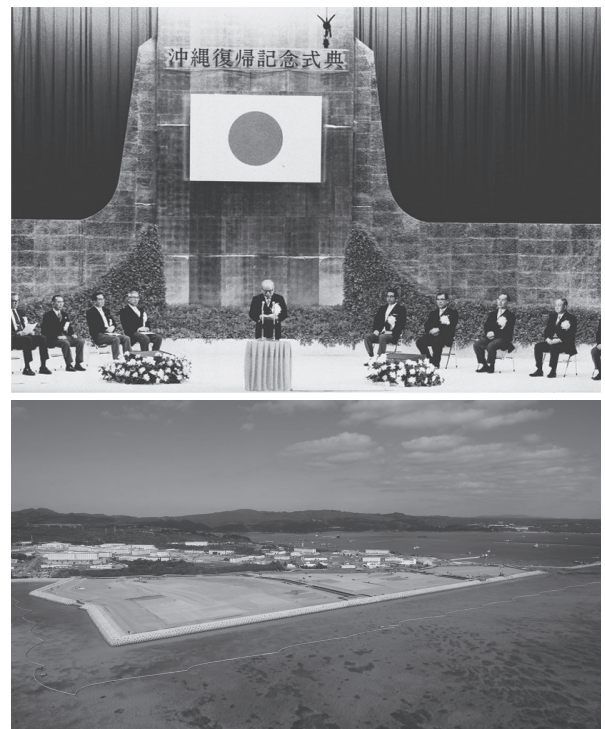
5月10日(火)～7月2日(土)

米軍の占領下にあった沖縄は1972年5月15日、日本への復帰を果たしました。その日、那覇市民会館の復帰記念式典での屋良朝苗知事の挨拶は、こんな言葉から始まりました。「沖縄の復帰は疑いもなくここにやってきました。しかし、米軍基地の問題をはじめ、いろいろな問題を持ち込んだまま復帰したわけであります」。

この時、屋良さんが願ってきた「即時・無条件・全面返還」は果たされませんでした。多くの人の悲願であった本土並みにはほど遠い復帰に対して、那覇市民会館に隣接する与儀公園では「沖縄処分」だと抗議の集会をして、喜屋武真栄参院議員、瀬長亀治郎沖縄人民党委員長らが、お祝いの垂れ幕の下をデモ行進しました。

あれから50年が過ぎようとしています。沖縄が抱える最大の課題は今も基地問題です。悲惨な沖縄戦の後遺症とも言うべき諸問題を解決できず、沖縄に米軍基地の負担を押しつけてきた結果、米兵の引き起こす事件や事故、騒音被害、環境汚染、人権侵害が今も続いています。

そこで、今年の沖縄展は沖縄戦の準常設展示に加え、復帰50年を縦軸に、沖縄戦後の主要な問題を年



(上)日本政府主催沖縄復帰記念式典で式辞を述べる屋良朝苗知事

(下)2021年12月14日、辺野古新基地埋め立て状況

表にして展示します。沖縄の現状を自分の事として考えていただけることを願っています。

報告

第9回寄贈品展—来て見て伝えよう戦争の記憶—

2021年12月7日(火)～2022年2月26日(土)

26名の寄贈者から寄贈された資料115点を展示公開、会期中コロナまん延防止等重点措置が出たなかで595名の来館者がありました。

会場には、親子三世代で来館され祖母の話に耳を傾ける娘と孫、猪高中学校生徒の平和新聞で来館した小中学生と家族の姿も見られました。「大切に保管されていたことに驚き、実際にものを見ることで当時の生活を肌で感じられた」「親子で平和について考える良い機会になった」などの感想が寄せられました。



▲寄贈者の方々からお話しをきく(12月7日 オープニングで)

●来館者の感想

B29の残骸でつくられたジュラルミンのペンケースを寄贈し、ご案内をいただいて来館しました。とてもわかりやすい展示でした。パンキン爆弾(春日井市)が愛知で使われていたこと、知りませんでした。中学生が見学にいらっやっていて、とても良い事だと思いました。(71歳女性)

遺書や体験談、写真などを拝見し、今の平和のありがたさと、先人達への感謝、生きている事のキセキ等、様々な気持ちが出てきた。自分のできる事をする、前を向いて人生を進んでいく、という気持ちになりました。ありがとうございました。(37歳男性)

教科書でしか知らなかった歴史がより身近な視点から感じられて、平和とは何かを今までで一番考えた。写真はもちろん市民目線で実際に見るように、当時の様子が伝わってきたし、実際のものを見ることで、肌で当時の生活を感じられた。(19歳女性)

「戦争の記憶」の貴重な品々の展示を拝見し、「歴史」を伝える資料がこれからもこのような形で保存されていくことを心から願いました。未来の平和を確かなものにするために、歴史を知り伝えていくことが私たちに求められていると思います。「15年戦争から」の展示資料、「パンキン爆弾」に関する展示資料、心にのこりました。とにかく一人一人の命の尊厳を奪っていく戦争をひきおこす思想を克服していかなければいけないと強く思いました。戦争の歴史(被害の歴史も加害の歴史も)を正しく知る、正しく知らせる。このピースあいちの存在は、今ますます重要になっていると思います。(65歳女性)

戦争中から長い時間がたっているのに当時のものが大切に保管されていた事に驚きました。戦死された方が御家族に宛てて書かれていたお葉書を読み、胸が詰まりました。奪われてしまった命はかえってきません。御家族の無念の思いも伝わってきました。戦争で人として扱われることなく消えていく命がなくなりますように。女学生さんの日記を読んで、いつの時代も若い方のみずみずしい感性は変わらないと思いました。(57歳女性)

新しい仲間を迎えて「語り継ぎ手の会(リボン)」
4月に総会を開きます。

戦争体験者が年々少なくなる中で、その貴重な体験を語り継ごうと2017年に、ピースあいち「語り継ぎ手の会(リボン)」が発足しました。以降、夏の語りシリーズや来館者へ、学校などへ出向き、「語り継ぎ」を行ってきました。

しかし、新型コロナ感染拡大のため、会としての活動は長らく休会となっていました。昨年、戦後75年プロジェクト語り継ぎボランティア研修を修了された皆さんを会にお迎えして、2022年1月にまず「語り継ぎの試演会」から始めようと再開しました。しかしながら再開するや否やオミクロン株感染拡大。2月の例会は中止となりましたが、3月には例会(試演会)を行い、4月には、久しぶりに会員の交流を総会を準備しています。

「戦争は二度と起こしてはいけない」という体験者の思いを多くの方に語り継いでいきたいと思います。



ボランティアの憲法勉強会を行いました。

2月5日(土)・3月26日(土)

改憲の機運を高める動きがあるなか、自分の言葉で護憲の意見を言えるようになろうと、ピースあいちのさまざまなボランティアを対象とした憲法勉強会を開いています。1回目の講師は鈴木秀幸理事長、2回目は松本篤周弁護士にも加わっていました。



平和へのメッセージ

自然界はきょうも「戦い」に明け暮れています。負ければ滅ぼされてしまいますから、そうならないために、大きな群れを作ったり、無数の卵を産んだりして、強いものに対抗します。人間の世界も古今東西、ずっと戦い続けてきました。多くは、より力のある武器を手にした側が有利に戦いを進めましたが、でも有利になると奢りが出ます。残虐な仕打ちにも平気になります。そして数多くの悲劇が生まれます。対抗する力は反省と良識かもしれません。

ある旅の思い出

これまでいろいろな戦跡を訪ねたが、一番印象深かったのは小4の息子を連れての「中国東北への旅」である。それは1984年の夏。かつての日本軍が旧満州で行った戦跡を10日間かけて巡るものだった。案内をしてくれた中国人通訳の淡々とした語り口の裏に時折見える厳しい目におののきながら、当時の関東軍の蛮行に身の置き場のない思いにかられたのを今でも忘れることができない。

またハルピンの自由広場で「市場が汚いでしょ。…これおいしいから持って行って」と流暢な日本語でそっと寄って来た女性が、かぼちゃの種子を差し出してくれ

小林 由紀子
(元教師)



た。私はその日本語にびっくりしたが彼女はきっと、その頃日本で話題になっていた中国残留孤児の一人ではなかったかと思う。

この旅の同行者に、満州生まれ満州育ち、小5の時に日本に引き揚げて来た、建築家の故・庄幸司郎氏がいた。北京への帰途の中で「軍隊なんて国民を守ってくれない。かのロシア兵が襲って来た時には関東軍はもう南方に逃げてしまった。彼らから婦女子を守ったのは僕たち子供だったんだ。」この言葉が今も耳に残っている。

“人殺し反対”の父のメッセージを伝え続けて

私は、父日比野勝廣の沖縄戦での体験を幼い頃から聴いて育ちました。父は、「僕だけ生きて悪かった」と生涯にわたり苦しみ続け、「戦争は怖いよ。僕の戦争体験を伝えてくれ」と言って、2009年に85歳で亡くなりました。

戦後110回以上沖縄を訪れ、無念に死んで逝った戦友を弔い続けました。父にとって沖縄戦を戦ったこの時期は、「毎日が誰かの命日」でした。父は、陸軍の歩兵でした。父の任務は、爆弾を抱えた兵士を敵の戦車に体当たりさせる「肉弾戦法」の配置班長でした。軍の命令一つで、若い兵士たちが一瞬で骨一本残ら

中村 桂子
(ピースあいち語り継ぎ手の会「リボン」代表)



ず、肉片となって散って逝きました。父自身も右腕を負傷して死臭漂うガマ(洞窟)で3か月間生死をさまよいました。父は暗闇を嫌がり、電気を消して寝ることができませんでした。そして、毎晩のようにうなされていました。

今ウクライナでは、77年前の悲劇が再び起きています。父は「戦争は国と国がするもの。僕たち兵士は、戦闘＝人殺しをしなければならなかった」「人殺し反対!」というメッセージも残しました。私も「人殺し反対」のメッセージを伝え続けていきます。

日常生活の中でじわじわと戦争が当たり前になるということ

私は、一般社団法人「ふろしき研究会」に所属して、すたれそうな日本の伝統文化である風呂敷の歴史や由来を伝えたり、使い捨てではないエコな視点からの活用術のワークショップをしたりしています。風呂敷の美しい文様は、本当にうっとりするぐらい素敵です。

しかし、数年前に、戦時中の風呂敷を初めて見た時、衝撃を受けました。日常生活の中で使われていた風呂敷の柄が、あきらかな戦争プロパガンダなのです。子どもたちの戦争ごっこ絵、占領した満州国の地図の上に、開拓団の小麦の石高の記載。軍艦や戦

半田 博子
(一般社団法人「ふろしき研究会」)

闘機の図柄。今で言うなら、紙袋やレジ袋にすべて戦争関連の絵柄が印刷されているようなものです。

残された記録や物から、戦時中の生活を想像することは、今までも繰り返し体験してきていますが、風呂敷という庶民の道具の中に、戦争へとつながるプロパガンダを発見した驚きを、この夏ピースあいちで開催される企画展「戦争プロパガンダ―国民を戦争に向かわせた宣伝たち」で、みなさんにも体験していただきたいと願っています。



誰かの「大切」を守ること

皆さんにとっての平和の象徴は何でしょうか。私にとっての平和の象徴は名古屋城と金鯱です。空襲により焼失し、人々の情熱と支援から再建された名古屋城は、この景色と歴史を守りたいという大勢の思いが込められた平和の象徴です。そして金鯱は昨年、地上へ降ろされ、コロナ禍で沈んだ街を活気づけました。私は、名古屋に寄り添ってきた金鯱と名古屋城を後世まで守りたい、大切なモノであると感じています。

人それぞれ大切なモノは違うと思いますが、それを愛し守りたいと思う気持ちは変わらないでしょう。だからこそ、他の誰かの大切なモノも守りたいと私は思います。現在、ウクライナでは、ロシア軍による空爆で街が

藤田 真悠子
(ボランティア)

破壊され、多くの人々が犠牲になっています。街には、そこに住む人や訪れた人のかけがえのない記憶が存在しており、平和の象徴とも言えます。しかし、上空から攻撃対象として地上を見ていては、その街の人々の日々の営みや幸せに何の重みも感じられないでしょう。攻撃対象としている街も、誰かにとっては大切な宝物であるということを忘れてはいけません。

誰かにとって大切なモノは、自分にとっても大切なモノ。この言葉が浸透すれば、戦争も犯罪も世界から消えるのではないのでしょうか。



創立45周年となる「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」

2022年2月24日、ロシアがウクライナを侵略した。大国が力づくで小国を思い通りにしようとするのはロシアに始まった事ではない。日本もアジアの国々への侵略の歴史があることを忘れないようにしたい。

今年で創立45周年となる「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」は、そんなアジアの歴史を含め、子どもたちに伝えていきたいと「ぞうれっしゃがやってきた」を始め、さまざまな合唱曲を創り続け演じ続けてきた。昨年12月には、東日本大震災・福島原発事故10年目にあたり、ミュージカル「バックトゥザ・フーちゃんII」を創作上演。この取り組みで、子どもたちが素晴らしく成長し、今までにない手ごたえを感じ、大人と子どもで一緒

藤村 記一郎
(作曲家)

に取り組む合唱団を続けてきて本当に良かったと思った。

今年6月には、「藤村記一郎 作品コンサート70」(なぜ70でしょう?) プレ企画を天白文化小劇場で開催、来年5月の本公演では、沖縄の読谷村を舞台に、平和と文化の村づくりを描くオラトリオ「鳳の花蔓」を創作上演する予定です。

こうしたさまざまな活動を「週刊うたごえ新聞」に毎週投稿し、平和と音楽の素敵な出会いを多くの方に体験していただく「愛知のうたごえ・うたごえ新聞広め隊隊長」をしています。



予告

夏の企画展 「戦争プロパガンダ―国民を戦争に向かわせた宣伝たち」

と き 7月12日(火)~9月17日(土)

ところ ピースあいち3階展示室・2階プチギャラリー

1931年に起こされた満州事変から15年もの長きにわたって戦争を遂行するために、戦意高揚と「国民のあるべき姿」を示す標語やスローガンが生活のあらゆる場にあふれました。

戦費調達のための国債や貯蓄の奨励のポスター。工場や町中の掲示板に貼られた短冊のかたちをした標語。内閣情報局が発行した「写真週報」。子どもの鉛筆やおもちゃに、マッチや茶碗の絵柄に、風呂敷のデザインに、駅弁の掛紙にまで…。

当時の「時代の空気」を生々しく伝える日常にしみわたった宣伝、戦時下の標語・スローガンの数々を見させていただきたいと準備を進めています。



報告

戦争体験の語りを58回行いました。

語り手活動の取り組み

本年度の「ピースあいち語り手の会」は、来館者や派遣などで戦争体験の語りを58回行い、聴衆は小学生から一般まで3111人。戦争体験者20人、語り継ぎ手12人がお話ししました。

「生徒たちは真剣に聞いてくれた。戦争の悲劇を理解したと思う」(語り手)。「終了後の小学6年生の質問には結構シビアなものが多かった。もう少し勉強しておかなければ」(語り継ぎ手)。

11月に実施した交流会では、「もっと語りの機会を増やしてほしい」「今こそ平和や戦争について語りたい」

などの要望が出され、意識高く取り組もうとされていることがわかりました。戦後76年が経過し、戦争を直接体験された語り手が少なくなっている中で、「もっと語り手の話を聞きたい」との要望が多くあります。



朗読の会「オリーブ」

皆さんは、オリーブの花言葉をご存知でしょうか? 「平和」「PEACE」です。オリーブは、平和の象徴として国連旗にも描かれています。

私たち朗読の会では、呼吸法や発声法、アクセントやイントネーションなどの練習を重ね、お話や物語を表現するという朗読の楽しさを味わいながら楽しく進めています。ピースあいちの活動に寄り添い、反戦と平和の意味を、大切な言葉を通して多くの人達にお伝えしたいと活動しています。最近はサマーセミナーや戦

争展などにも参加しています。

2022年5月5日 子供の日の「ピースまつり」では、新美南吉の短編作品

(7作品)を聞いていただく予定をしていますので是非、ピースあいちへご来館ください。心よりお待ちしております。



修学旅行で来てくれる関西地方の小中学校が増えています。

このところ、修学旅行の目的地として「ピースあいち」を選んでくれる関西地方の小中学校が増えています。しかし、コロナ禍で来館申し込みのキャンセルが続きました。今年も6月、11月と来館予定が入っていますが、その頃までに感染者が減って順調に受け入れ可能となることを願っています。

例年のように来館する学校は、このコロナ禍でも見

学に来てくれました。こういった学校の特徴は、見学後に文集を作成したり、感想文をたくさん送ってくれることです。

初めて見学に来た学校の中で際立っていたのは「ピースあいち」から学んだことを基にして、自分たちが追加して調べたりした平和新聞を生徒たちが作ったことです。新聞の一部は「ピースあいち」のプチギャラリーで展示されました。書くことで、単なる「知識」ではなく、「戦争と平和」についての記憶として生徒たちの心に残ることでしょう。

シリーズ
平和を守る仲間たち⑬

三重県立久居農林高等学校 防空壕保存プロジェクト
～私たちが考える戦争の記憶の継承～

戦争は最大の人権侵害であり、二度と起こしてはいけません。しかし、戦後76年が経ち、戦争体験者の高齢化は進み、戦争の記憶を受け継ぐことが難しくなっている現状があります。この課題に対して私たちができることは何か。「これから戦争を物語るのは、人からモノになる」と教えていただいた私たちは、校内に残る防空壕を保存しようと思い立ち、校内の生徒たちの多大なる協力のもと、防空壕保存プロジェクトを実行しました。

これまで戦争については、本を読んだり話を聞いたりすることばかりで、遠い昔の話という認識でした。しかし、今回の防空壕保存プロジェクトを進めていく中で、

戦争というものを少し身近に感じるようになりました。それはこのプロジェクトに関わったメンバーは皆同じ気持ちだと思います。

防空壕の中に入るとかなり圧迫感があります。このような穴に実際に入った昔の人びとはどのような気持ちだったかと思うと心が痛みます。二度と戦争を起こしてはならない。平和な日常がいつまでも続きますように。今回保存した防空壕は静かに戦争を語り続けてくれるはずです。



ボランティアの窓

過ち繰り返さぬために…

佐藤 和夫



縁あって、ピースあいち開設時からのボランティア、所属は営業第3課広報係で、企画展チラシの公共施設、地下鉄駅等への配架依頼と共に時には小・中学生等への「展示ガイド」をしている。また個人的には来館者の増大を目指し、500名を目標に取り組んでいるがこの処は足踏み状態(残り約1割)。

昨今、ピースあいちの開設理念を否定するかのような危険な情勢となっていることに危機感を覚える。平和憲法下にありながら、「敵基地攻撃能力」を目指す等の軍事力強化と憲法第9条の骨抜きを狙う改憲発議が狙上に載せられようとしている。平和憲法第9条改憲に賛成する人に伝えたい。『いざ戦争になった時には老若男女の別なく、武器を持って最前線で闘う決意で臨んでもらいたい!』…と。

ルソン島で戦死、餓死したであろう父と重なる 大久保 清子

今年の冬は、ことの外寒さが一段と厳しく、コロナへの対応と共に体調を整えるのが大変でした。

2月24日、ロシア軍のウクライナへの一方的な攻撃が始まり、連日トップニュースで報道され、悲しく重い気持ちになり、プーチンの顔が鬼の形相に見えて仕方ありません。ルソン島で戦死、餓死したであろう父が重なります。

3月になり、梅の開花と共に気温も上がり過ごしやすくなってきています。前館長の野間さんが元気なころ、「ボランティアの皆さんには、それぞれの大事な時間をいただいているのでありがたい」と優しい笑顔で声をかけてくださったこと、思いだされ、忘れられません。



資料館探訪 31

広島市の平和公園は1949年制定の広島平和記念都市建設法によって作られた。この公園の中に原爆資料館やモニュメントがたくさん建てられている。公園全体が資料館と言ってもいい。今回は公園内にあるモニュメントを紹介する。

大論争のあった原爆慰霊碑

原爆慰霊碑は碑文を刻んだ石棺のうしろに埴輪の屋根をかたどったおおいがあり、碑の正面からその屋根の内側を通してかなたに原爆ドームが見える構成になっている。碑文には「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と彫られている。この碑文の意味の取り方を巡って大論争が起きた。この文には主語がなく「過ちは繰返さない」という主体が明示されていない。「我々日本人」を主語とするならば、なんでアメリカの落とした原爆の犠牲者である死者に対して、日本人である我々が過ちを繰返さないことを誓わねばならないのか、誓うべきなのはアメリカ人の方ではないかという批判がなされたのだ。「原爆を落とす戦争という

過ちを二度と繰返さないという人類の誓いだ」という共通理解に達し、この論争の決着がついた。

峠三吉と原民喜の詩碑

峠三吉の詩碑は平和記念館の北側にある。有名な「ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ こどもをかえせ」の詩文が刻まれている。詩碑の裏側には英語で「Give back my father, give back my mother」と彫られている。

原民喜の詩碑は原爆ドームのそばにある。原民喜は詩人であり、作家としても優れていた。『夏の花』をはじめとする優れた原爆文学を生み出したが、1951年東京で鉄道自殺を遂げた。詩碑には、「遠き日の石に刻み 砂に影おち崩れ墜つ 天地のまなか 一輪の花の幻」という遺書の一部が刻まれている。(N)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

「ピースあいち」の会員になって、戦争と平和について考えてみましょう。

私たちの館の財政は、基本的に3本立てで賄われています。一つは年会費。2022年3月現在、正会員356人から6000円、賛助会員423人から3000円をいただいております。二つめは入館料収入です。各種企画展示や常設展示を見学においでの方々からいただくのは、大人300円、子ども100円です。三つめは寄付金や助成金収入です。これは時に大きな助けになりますが、残念ながら確実に入ってくるものではありません。

一方、支出は年間平均して1100万円ほどが必要です。多くを善意の人たちやボランティアの方々にお願いして経費を抑えていますが、財政は基本的に不安定です。これを安定させなければ、

ピースあいちの運営の安定もありません。

そこをお願いします。正会員でも賛助会員でも結構です。会員になって「ピースあいち」を支えてください。思い立ったら吉日、電話・FAX052-602-4222へご一報下さい。

◆オンライン振込◆

クレジットカード・銀行振込でもピースあいちへのお入金・寄付をしていただけるようになりました。



オンラインのお入金はここ



オンラインのお寄付はここ

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日
- 入館料 大人 300円
小中高生 100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

こしは私たちにとって二つの記念日がある年です。一つは沖縄本土復帰50年です。1972年5月15日、鳴り物入りで復帰しましたが、50年経った今も、広大な沖縄の米軍基地は、その多くが残ったままです。では50年の歳月で何か変化したのか。今回は5月10日から沖縄展を開きますので、是非ともおいでください。もう一つの記念日はピースあいち15周年です。2007年5月4日の開館の日には会場の名東文化小劇場が満員になったことを思い出します。「15年戦争を学び直そう、今の日本の平和を守っていこう」の精神は、この15年、受け継がれてきたと思います。宮原館長の挨拶が2面にあります。(K.S)